

「わが家の奇跡」

「命は奇跡」と母は言う。
自分と同じ人間はいないから、存在しているだけで奇跡かもしれないと僕は思う。

わが家には、二度の奇跡がおきた。

一つ目の奇跡は兄。

お腹の中にいる時から危険なことが何度もありながら生まれてきた兄は、八百グラムと小さな命だったそうだ。

たくさんの試練を乗り越え少しずつ成長したという兄は、周りに大きな勇気と希望を与えたのだと思う。

二つ目の奇跡は僕。

クリスマスの日、お腹の中の僕の存在がわかり、その奇跡がうれしくて眠ってしまうのがもったいないと思うほどだったと聞いた。

「生まれてきてくれて有りがとう」と喜びの中で生まれてきた僕がここにいる。

人間には、一人一人役目があるという。

僕にも何か役目があると思う。

奇跡を信じ命を待ち望んでいた家族と、

自分のために

僕は僕の役目をしっかり果たしていきたいと思う。

